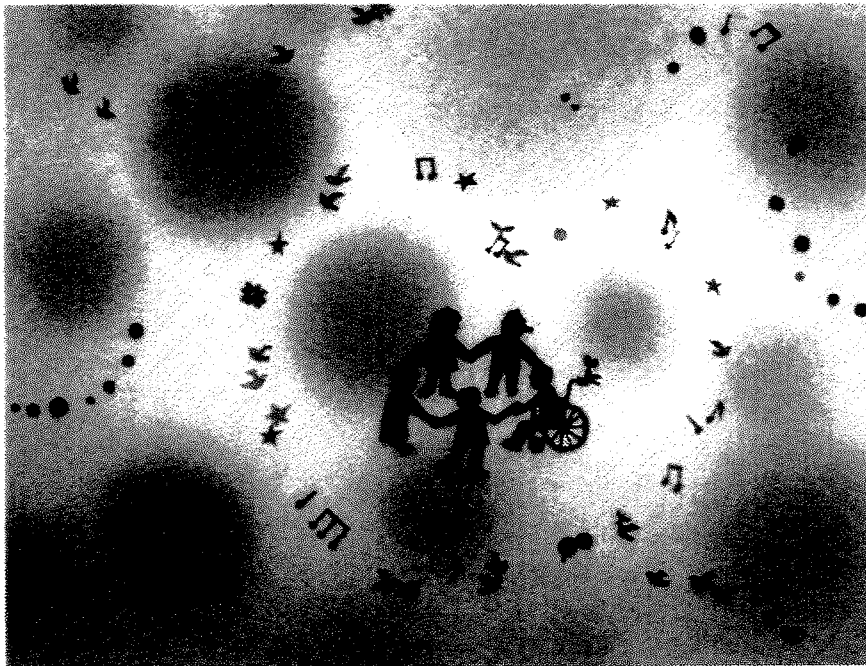


光射せ!

北朝鮮収容所国家からの解放を目指す理論誌

第5号 (2010年7月10日)



特集1 朝鮮高校無償化問題

特集2 朝鮮総連裁判、いよいよ最高裁へ

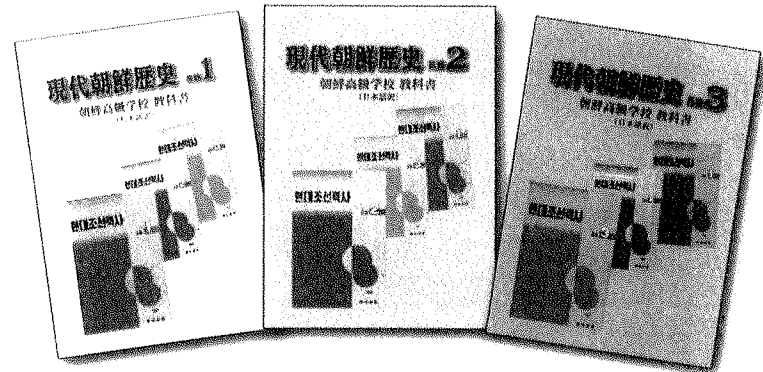
特ダネ 最新 朝鮮総連内部資料(教科書問題)

北朝鮮帰国者の^{いのち}生命と人権を守る会

日本語訳 緊急出版 **朝鮮高校** 朝鮮高級学校 **の教科書**

1巻、2巻、3巻 完訳

いま、議論されている朝鮮高校
の授業料無償化、是か非かは、この
本を読んでからでも遅くはない!!



ご注文は **星へのあゆみ出版**
★ 072-990-2867 FAX 072-990-2867

Email: hosihenoayumi@gmail.com

〒581-0848

大阪府八尾市西山本町7-6-5 3F

頒価: 1・2・3巻とも、1冊 **2,880円** (+送料100円)

※守る会 会員は1冊 1,500円(+送料100円)

刊行のつとば

「地上の楽園」北朝鮮に渡った在日朝鮮人・日本人妻十万人のうち数千人、あるいはそれ以上が強制収容所で絶命しているという悲惨な状況を救いたい——そんな善意から出発した私たちの運動も十四年の歳月を重ねた。原点は人権侵害への怒りであった。

そのなかで日本人拉致の事実が明らかになった。国民的怒りは二〇〇二年九月、ついに金正日に拉致を自白させるにいたった。人権蹂躪と主権の侵害が国民的な認識となった。加えて二〇〇六年十月の北朝鮮の核実験によって平和と安全が新たな国民的関心事となった。人権と主権と安全を尊重しない国とは国交を樹立すべきではない、国交の前にそれらを解決しなければならないという共通認識が生まれた。

いま、新しい状況に際会した。金正日政権を「悪の枢軸」と呼んで武力攻撃も辞さない構えだったブッシュ政権が、金正日政権と握手し、友好国として国際社会に迎え入れようとし始めた。拉致は日本の問題、われわれは関係ない、というアメリカの態度に後ろ盾を失ったと嘆く人もいる。拉致棚上げによる国交を主張してきた人たちは逆に勢いづいている。運動はいま大きな混乱にある。そういう時こそ原点に立ち返るときである。人権と主権、国民の安全を掲げて新たな運動を構築するべきが来た。なにが求められているのか、どう進めばよいのか、広く対話をおこない、新たな方向を見出してゆきたいと考える。

そのための討論の場として『光射せ!』を世に送り出す。ささやかではあるが、人権と人道、主権の尊重、核のない世界を目指す人類の普遍的願いに合致している以上われわれの声は広くうけ入れられることを信じていたい。

建設的な論議を重ねることによって国のうちそとの人たちとの協同を期待する。

二〇〇七年十二月一日

『光射せ!』編集人

萩

原

遼

表紙画: 丘 こうせい、表紙題字: 小川 晴久、装幀・デザイン: 窪田 和夫

若い男性のつくづくくれた朝食

「国本さんが近づいて来ながら「朝飯ができましたよ」と朗らかな声で言ってくれた。居間は私の寝た形跡などなくきれいに片づけてあった。二人で向かい合って昨日と同じ白い飯と味噌汁とを食べた。国本さんは母が何故お姉さんだけを大事にするかと聞いていた。私は笑った。彼は今、夕べのことを言おうとしている。大事な年頃の娘を狼の側に捨ておいていくということは、尋常ではないと言いたいのだろう。」

「母の大事な子は弟ですよ。姉でも私でもなく、姉が弟を連れて避難すると手紙を残して行ってしまったから、母は躍りになって見届けようとしているのです。母は男の子二人に女の子三人も生んで、残ったのが姉と私の二人だけで、みな幼いとき死なせたので、いまの弟は小さい時養子にきて、国民学校のいま四年生になるまで大事に育てていたんです」

「ほう、なぜそんなに男の子に執着するんですか？ もちろん僕だって家に帰ったら姉や妹より大事にされますが、こんなに立派なお嬢さんが二人もいるのに……」
「とんでもありません。私は東羅南では叱られてばかりいて、立派だなんてとんでもない……」

この人は私のことを大事な娘だと思っただけを戒めていたのだ。いい人だ。故郷が忠清南道だと言っていたが、本物の忠清道両班ではないか？ 母がくれぐれも宜しく頼むと、あなたのことを信じますと言っていた言葉を守ってくれた。ありがたい。私はいつの間にか祖父のころから母が男の子を育てるためにどんな苦勞を重ねてきたかということまで喋っていた。国本さんは自分とはなから関係のないことでもおもしろそうに聞いていた。いまこの文を綴りながら、はて、あの人はどんな顔をしていたっけと思いついたが駄目だった。たったの二日見たきりの人だったが、いまでもいい人だったという気持ちに変わりは無い。
(つづく)

ドーラ・キムさんは一九二七年、北朝鮮の咸鏡北道・雄基生まれ。東羅南高等女学校を経て、名門の梨花女子大学美術学部西洋学科を卒業（一九四九年）。
一九六四年、ドイツのSotho - Grunng 国立美術学校で彫刻、金属工芸を研究。
一九七二年、米国ハワイ州に家族と移住。一九八一年カリフォルニア州ロサンゼルスに移住。在米韓国人として各種の美術展に出品。
本誌編集人の萩原遼が一九八九年〜九二年まで首都ワシントンに滞在中に知り合い、日本語で書いた手記を託されたのがこの連載につながった。

編集あとがき

- ♥発行が当初の予定より一カ月も遅れましたことをお詫びいたします。3月末より朝鮮高校の授業料無償化問題が持ち上がり、教科書3冊の翻訳や編集作業に私を含む3人のスタッフが手をとられたためです。言い訳になりますが申し訳ありませんでした。とくに、締め切りを守って御寄稿くださいましたご執筆の方には心からお詫びを申し上げます。スタッフの充実も含め改善いたします。
- ♥教科書問題では、大手新聞の社説が早々と「差別はよくない」と授業料無償化賛成の論調を張ったため、一般の方々も、授業料無償化除外は朝鮮差別になると誤解されているようです。朝鮮総連経営の朝鮮高校で長く教職にあった申相一先生が「授業料無償化除外は差別ではない」の主張を展開してくださいました。場合によってはテロの危険もある中で「真実と正義のため」と、勇気をもって発言していただいたことはなにも勝る励ましです。
- ♥朝鮮総連を裁く高政美さんの裁判もいよいよ最高裁に移ります。こちらも邪悪な政治によって命と人生を奪われた犠牲者が泣き寝入りせず、責任の所在をはっきりさせたいという、当たり前前の行動です。正々堂々の主張で邪悪な勢力とたたかっている高政美さんを今後とも支援していきましょう。
- ♥小島晴則さんの「北に消えた金和美 わが想い わが悔い」は涙なしには読めなかったとスタッフの一人がつぶやきました。小島さんの50年間の想いは、帰国運動にかかわった者みんなの共通の思いでありましょう。希望にもえて北にわたって無残に命を奪われた乙女の無念。この事実を朝鮮総連が「われわれは関係ない」ですまされるのか。最高裁を前に、あらためて私たちは犠牲者の霊に誓いたいと思います。必ず裁判に勝つ、と。
- ♥今号の特徴は、自発的に執筆くださる方が増えたこと、および多彩なテーマに広がったことです。5号目でどうにか市民権を得て定着し始めたということでしょうか。編集陣としましてはとてもうれしいことです。
- ♥次号の第6号は予定通り12月初めに発行いたします。ご寄稿をお待ちします。
(萩原遼)

『光射せ!』第5号

発行日 2010年7月10日
 発行人 三浦 小太郎
 編集人 萩原 遼
 発行所 北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会
 連絡先 〒581-0868 大阪府八尾市西山本町7-6-5 3F
 TEL・FAX 072-990-2887
 頒 価 900円 送料 100円